

報 告

日本水彩畫會大阪支部會告 (五月十日)

△當支部代表幹事北山清太郎上京せられ候に付き都合上支部事務所を大阪市東區南農人町二丁目五七六隅直造方に置き候間入會希望者は、右の所へ御申込み下され度候

△當支部幹事一名不足を告げし爲大隅直造を之れに任せられ候。

△第四回寫生會は來る五月十五日午前七時天滿停留所に集合し寢屋川方面に向ふ筈に候。

通 信

私は昨年三月『みづゑ』を初めて手にしまして同時に研究所の別科へ入學しました極めて初學の者でございます。僅か一年間それも日曜だけの誠に浅い研究でございますが得る所の多いのに心から嬉しく感じました。青い麥の間に菜の花交りて暖の末に白帆が霞み彼方の茅屋に桃の一株紅を點じ撥釣瓶は音もなく蝶々二つ東風吹く中を狂ふが如き長閑なる春の景色、又は新緑滴る夏の朝、萬象金色を彩る秋の夕陽等かうした郊外にたまたま一日を繰合せ三脚とスツケツチ箱を携へて自然と親しむ其時の愉快さは實に無限でございます。假令其畫は拙なるにもせよ受くる所の利益はひとり技術の進歩のみに止まりません。吾

々誘惑に陥りやすき青年期に斯の如き良好な娛樂を味ふ事を得たのは實に先生の賜と存じまして失禮をも顧みず茲に秃筆を紙つて御禮を申し上げた次第でございます。終りに臨みて謹んで先生の健康を祝し研究所の發展を祈ります。不備

四十四年四月十五日

別科生 小林喜太郎

寄 書

京城寫生

西大門

京城 横田塔村

風無く暖く四邊の山々紫に青に彩られし四月の日、内地にありては岡の畑の菜花には黄白の蝶の舞ひ、輕き風は綠なす麥を吹きて海の如く、これただ海外の人に眼前に現はるゝ故郷戀しき念。

庭のポプラも漸く元氣附き來りしが、まだ梅も咲かぬ朝鮮ではあるが、今日は馬鹿に好い小春のやうな日なり。

南大門通りに出た僕は、路を長谷川町へと韓國銀行新建築場の左を辿つた。支那式の家屋が列んで居る、左側の芝士手に白壁の塀が廻つて、中には温かい温室の如き家の硝子屋根が太陽の光で美しく光つて居り、西洋館の建物もあり窓とは赤へカーテンが引かれて、漸く芽を出して來た木は庭一帯に植込められてある、暖國の別荘の様な家、門前には歩硝が立ち居る軍司令官の官舎であつた、其の前には大隊兵營があり、右側には廢宮があつて、高い五十の塔は寂しく立つて居る、露道に入ると紅燈